

Japan Evangelical Theological Society

# 日本福音主義神学会

J·E·T·S・ニュース 第 8 号

発行所 〒651 神戸市中央区中島通2-3-5 神戸ルーテル神学校内

一九八二年より二年間、全国理事会長を務めさせていただきました。次期理事長は西部と中部いずれかの部会理事長より選出されることになります。神学会ニュース第五号で、「世代交代、自己同一性の確立、内包する神学上の問題に直面しております」、いわば「通らざるをえない節目の時期」と私の心得の一端を表現しました。

ここに、その時期を振り返り、学会員や関係者のご協力に感謝しつつ、一言所感を述べさせていただきます。

最後の晩餐の席、来るべき十字架へ向け進もうとするイエスにペテロは「主よ、どこにおいてになるのですか」(ヨハネ十三・三六)とたづねました。この聖句とペテロのローマでの殉教に関する古代教会の伝説に着想したのがシェンキエヴィチの有名な歴史小説、「主よ、いざこに」でした。

近々、創立十五周年を迎える神学会にも、その進むべき方向に関し、「主よ、いざこに」の問を真剣に発

研究活動や東部での「高度技術社会と倫理」研究会の発足などが注目されています。最近、全盤的に沈滞気味である部門別の研究会の振興は言ふにおよばず、神学と他学との境界領域を新たに興こし、福音主義神学の広がり、多様性を明らかにする必要があろう。

最後に、神学会の組織的問題が考えられます。最新の「キリスト教年鑑」によれば、神学会は会員三五八名、賛助団体二七となっています。現在の三部会がさらに増えれば、会員数の増加の可能性もありましょう。しかし、組織の上では、創設時から基本的にあまり変っていないのですから、大きな組織体をいかに運営するか、という問題が切実となっています。全国理事会と部会理事会、全國研究会議と部会の部門別研究会や全体研究（講演、シンポジウムなど）会、神学会誌と会員の諸研究。これらがいかに機能的に作用することができるのでしょうか。また、地域により学会の活動に十分参加できない問題。機能的な理事会のあり方事務局の機能、外部団体との関係樹立など課題は多くあります。「教会により良く仕える」という神学会の目標に照合して、自己改革が迫られているのではないでしようか。

する時機が到来したよう見えます。この問との神学会の取り組みが盛んになることを願って、以下に三つの問題領域と思われるものを想定してみよう。

まず、福音主義神学の基盤、とりわけ聖書論の問題。神学会規約で言う「聖書の十全盡感を信じる」とする私たちの立場に関しても、理解にかなりの幅のある事実が、昨年末の第二回研究会議でも明らかにされた。建物がいくら大きても、基盤の弱い砂上の櫻閣では意味がない。この問題との取り組みの緒についたばかりの神学会ではあるが、今後の研究会議などを通して、より確固な、共通する基盤の確立が期される。

次に、神学会の活動の広がりと多様性の問題。西部々会による九州への働きかけ、東部々会による東北への呼び掛けなど活動の広がりが見られます。また、神学的関心の多様化は著しく、靖国問題をはじめ、西部や中部で試みられている「学際的」

## 東部部会報告(I)

(一九八三年三月八日～十一月七日)——J·E·T·Sニュース、第七号に掲載出来なかつたもの——

編集者注

○九月十六日(金)

一、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

三、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

四、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

五、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

六、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

七、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

八、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

九、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十一、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十二、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十三、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十四、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十五、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十六、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十七、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十八、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

十九、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十一、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十二、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十三、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十四、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十五、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十六、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十七、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十八、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

二十九、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

三十、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

三十一、東部部会理事会報告

○九月十六日(金)

- 90 西満氏  $\rightarrow$  一九一、住所  
→ 日野市日野一〇一六ノ九、電話、  
東部部会報告 (II)
- 四二五・八六一四八〇八  
→ 九月十六日(金)  
ノ一三  
○九月十六日(金)  
緑区長津田四ノ六ノ十一  
→ 準会員  
○27 八鍬輝隆氏 退会  
→ 新入会員  
○B・ケイン氏 一九二六年生、  
所属・役職、日本長老伝道会宣教師、  
テ190-1-01、住所、東京都西多摩郡日  
の出町平井九五七ノ一五。電話、  
○四二五・九七一三九一四、主要学  
歴・学位、プレスピテリアン・カレ  
ッジ、コロンビヤ神学校、ニュー・  
オーリーンズ・バプティスト神学校、  
フラー神学校、B・A、B・D、Th  
・M、専攻分野、ギリシア語、新約  
学。  
○渡辺賢治氏 一九四五年生、所  
属・役職、日本同盟基督教団タイ宣  
教師、住所 C&MA Guest Home  
Pradipat Rd., Saparnkhwai, 三、部会報告  
九月三十日(火)(三上氏が「 $\pi$ 」  
ネの福音書の教会論」のテーマで發  
題。出席者、三名)。  
五、東部部会会員名簿正誤表  
<正会員>

- 九月十六日(金)  
第一回研究会。一九八四年二月十三  
日(月)。稻垣久和氏が「生命倫理」  
について発題した。出席者、十二名。
- 九月十六日(金)  
愛知大大学院、聖書神学舎、コロン  
ビア・グラジュー・エート・スクール、  
経済学修士、専攻分野、実践神学(開  
拓伝道、個人伝道、フォローアップ)、  
(書記 大滝信也)

東部部会の「高度技術社会と倫理」  
研究会の稻垣久和氏から、次の報告  
が寄せられました。

東部部会に「高度技術社会と倫  
理」研究会が新たに発足しました。  
新研究会成立の経過については、理  
事会報告に述べられると思います。  
で省略致しますが、第一回研究会が

十二名の参加を得て、二月十三日に  
キリスト教会館で持つことにした。  
シンボジウムのテーマは、「ウォ  
フィードの聖書論を巡って」。そ  
の肯定面と否定面」とする。夜の講  
演会には、講師に鳶田公義氏を予定。  
○会員審査の結果、左記のように  
決定した。

山口勝政氏、鳶田公義氏、藤原導  
夫氏、中富清和氏を正会員として認  
める。

荒木忠義氏を準会員として認める。  
正会員石川洋一氏と岩永隆至氏の  
退会を認める。

第二回神学研究会議での発表をも  
とにした論文が載るが、東部からは  
三本を予定している。

国際的議論が載るが、東部からは  
まだしばらく続き、それから「産業  
化・管理化社会」、「教育(家庭・  
教会・学校)」、「核兵器と和平」  
がテーマにされます。第二回は四月  
十六日で、発題が上沼昌雄氏、コメ  
ントが伊藤真也氏の予定です。」



### 中部部会報告

一 中部部会理事会報告（一九八四年二月十九日、志賀教会）

1. 中部部会秋の研究発表会は、八三年、十一月七日、大韓教会で開催され、十二名の出席者があつた。

2. 八四年度の総会の準備につい

て、（日時、五月十四日（月）、十時三十分～十二時まで総会、午後講演会、

○場所 小企業センター

○講師 津村俊夫氏

○総会時の報告内容について検討

○総会議題は、八四年度予算につ

いて、八四年度行事計画について、

理事改選について、なお、理事の数

を現在の七名から五名にすることに

ついても検討する。

3. 年間活動計画について

以下の通り決定した。

(1) 総会、講演会、五月十四日（月）

午前十時半～午後四時半  
(2) 秋の研究会 十一月十二日（月）

午後一時～四時

会場、金山教会

○発表は一名とする。

○発表者を募る。発表希望者のな

い場合には、理事会で検討する。

4. 学会誌の残部の処理について、

新入会員に勧めるなどして、でき

成）  
（窪寺俊之氏の報告により作

る限りさばいていく。

5. 理事の数変更の件について、

その理由は、部会の現状からして、なうこと、会員相互の交流をはかる

五名程度でむしろ機動性が發揮されるようとした方がよいのではないかと

いうことによる。この点について、よく説明をした上で、総会にはかる

ことが決せられた。（中部部会理事会議事録より作成）

### 西部部会九州地区報告

1. 秋の研究発表会・講演会について

○日時 十一月五日（月）

○講師 安田吉三郎氏（西部部会

理事長、改革派神港教会牧師）

3. 現在、西部教会の理事待遇、

会員数が少ない。活動をさらに活発

にするために、会員の数を増加させ

ることを目標としている。

4. 現在、西部教会の理事待遇、

窪寺俊之氏、山中猛士を中心、

活動が活発化している。昨年の発表

会には清水沢氏に講演をしていただ

いたが、今年は安田吉三郎氏に来て

いただき、会員増の足がかりをつけ

ようと考えている。

（窪寺俊之氏の報告により作

成）

### 九州四国部会の設立を目指す

福音主義神学会は、神学研究を行

な動きはありませんが、昨年は愛媛

大学の森作常生先生に総会の日の講

演をお願いして実現しましたし、今

ります。日本にある福音主義諸教会

の一致のために、全国規模の研究会

議を開くことと、会誌の発行を続け

ることは欠かせない事業です。しか

しそれと同時に、神学会が会員相互

の関係をより濃やかなものにし、地

域性に富んだ活動を盛にすることも

大切です。そのため、部会設立の

必要は、神学会が発足した当初から

痛感されていました。まず東西の部

会が生まれ、続いて中部々会が生ま

れました。そして西部々会はいま、

九州と四国に部会を設立することを

目指しています。今年度へ一九八四

年は、窪寺俊之先生と山中猛士先生の

お二人がおられ、これまでに九州独

自の研究会議、講演会が実施されて

きました。これらの実績があります

から、九州部会はやがて実現するに

案ができればと願っています。

四国地区にはまだこれほど具体的

な動きはありませんが、昨年は愛媛

大学の森作常生先生に総会の日の講

演をお願いして実現しましたし、今

ます。日本にある福音主義諸教会

の一致のために、全国規模の研究会

議を開くことと、会誌の発行を続け

ることは欠かせない事業です。しか

しそれと同時に、神学会が会員相互

の関係をより濃やかなものにし、地

域性に富んだ活動を盛にすることも

大切です。そのため、部会設立の

必要は、神学会が発足した当初から

痛感されていました。まず東西の部

会が生まれ、続いて中部々会が生ま

れました。そして西部々会はいま、

九州と四国に部会を設立することを

目指しています。今年度へ一九八四

年は、窪寺俊之先生と山中猛士先生の

お二人がおられ、これまでに九州独

自の研究会議、講演会が実施されて

きました。これらの実績があります

から、九州部会はやがて実現するに

ます。日本にある福音主義諸教会

の一致のために、全国規模の研究会

議を開くことと、会誌の発行を続け

ることは欠かせない事業です。しか

しそれと同時に、神学会が会員相互

の関係をより濃やかなものにし、地

域性に富んだ活動を盛にすることも

大切です。そのため、部会設立の

必要は、神学会が発足した当初から

痛感されていました。まず東西の部

会が生まれ、続いて中部々会が生ま

れました。そして西部々会はいま、

九州と四国に部会を設立することを

目指しています。今年度へ一九八四

年は、窪寺俊之先生と山中猛士先生の

お二人がおられ、これまでに九州独

自の研究会議、講演会が実施されて

きました。これらの実績があります

から、九州部会はやがて実現するに

ます。日本にある福音主義諸教会

の一致のために、全国規模の研究会

議を開くことと、会誌の発行を続け

ることは欠かせない事業です。しか

しそれと同時に、神学会が会員相互

の関係をより濃やかなものにし、地

域性に富んだ活動を盛にすることも

大切です。そのため、部会設立の

必要は、神学会が発足した当初から